

ウエイト東海

高積み問題を問題視

ウエイト東海（片山和洋社長、愛知県半田市）は倉庫業等幅広い業界で行われている高積み疑問視し、注意喚起をしている。

「高積みは誰が見ても危険。ほとんどの場合、十分な安全対策がなされていない」と同社の片山悠取締役は指摘する。同氏は17才の時、大手量販店にある商

品の高積みを見たことをきっかけに高積み不安を抱いた。同社に入社後は、この危険性を訴えながら営業活動をしたが訪問した会社は聞く耳を持たない場合が多かったという。

高積みはスペースを取らない利点がある。しかし一方で、安全配慮義務を無視している会社は信頼が失われる可能

性が高いと同氏は指摘。「事故が起きてからでは遅い。人命に関わることであるし、企業は労働者を守るために安全対策

を加えて同氏は、高た。（森 あきは）



片山取締役と自動ラック「S・G・B」

積み目の代替え案として、自社が開発した自動ラック「S・G・B」の導入により、積み荷による労災事故を回避、労働環境が改善されると提案する。

片山社長は「物流は経済を回すエッセンシャルワーカー。その従事者が安全な環境下で働くためにも、業界全体で安全マネジメントを構築してほしい」と考えを示し